

森林の整備及び保全

県 市町

ためる ～流域対策～



間伐実施林 村岡区長板

①新ひょうごの森づくりの概要

森林の持つ公益的機能の高度発揮を図るため、公的関与による森林管理の徹底、多様な担い手による森づくり活動の推進を基本方針として、「新ひょうごの森づくり：第2期対策(平成24年度～平成33年度)」を推進し、人工林に関する“森林管理100%作戦”では、間伐が必要なスギ・ヒノキ人工林について、市町と連携した公的負担による間伐及び作業道開設を実施するほか、里山林対策においては、手入れされなくなった里山林の再生を行う。

実績と目標

平成26年度

整備区分	実施面積 (ha)					合計面積 (ha)
	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町	
間伐実施面積	147.22	195.84	233.39	404.8	179.6	1160.85
里山林整備面積				11.0	2.0	13.0
合計	147.22	195.84	233.39	415.8	181.6	1173.85

平成24年度～平成26年度累計

整備区分	実施面積 (ha)					合計面積 (ha)	平成33年度目標 (ha)
	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町		
間伐実施面積	440.18	475.17	949.55	607.25	445	2917.15	全県 62000
里山林整備面積				11	7	18	全県 200
合計	440.18	475.17	949.55	618.25	452	2935.15	全県 62200



里山防災林 香住区上計



緊急防災林整備 出石町奥山

②災害に強い森づくりの概要

防災面での機能を高めるため、「災害に強い森づくり：第1期対策（平成18～平成22年度）」、「同第2期対策（平成23～平成29年度）」に引き続き、「同第3期対策（平成28～平成32年度）」に取り組み、

- ① 緊急防災林整備（流木・土石流災害が発生する恐れのある渓流域の森林機能強化）
- ② 里山防災林整備（集落等裏山森林の防災機能強化）
- ③ 針葉樹林と広葉樹林の混交整備（高齢人工林の機能強化）
- ④ 野生動物共生林整備（人と野生動物が共生できる森林育成）
- ⑤ 住民参画型森林整備（地域住民の自発的活動支援）

を推進する。

実績と目標

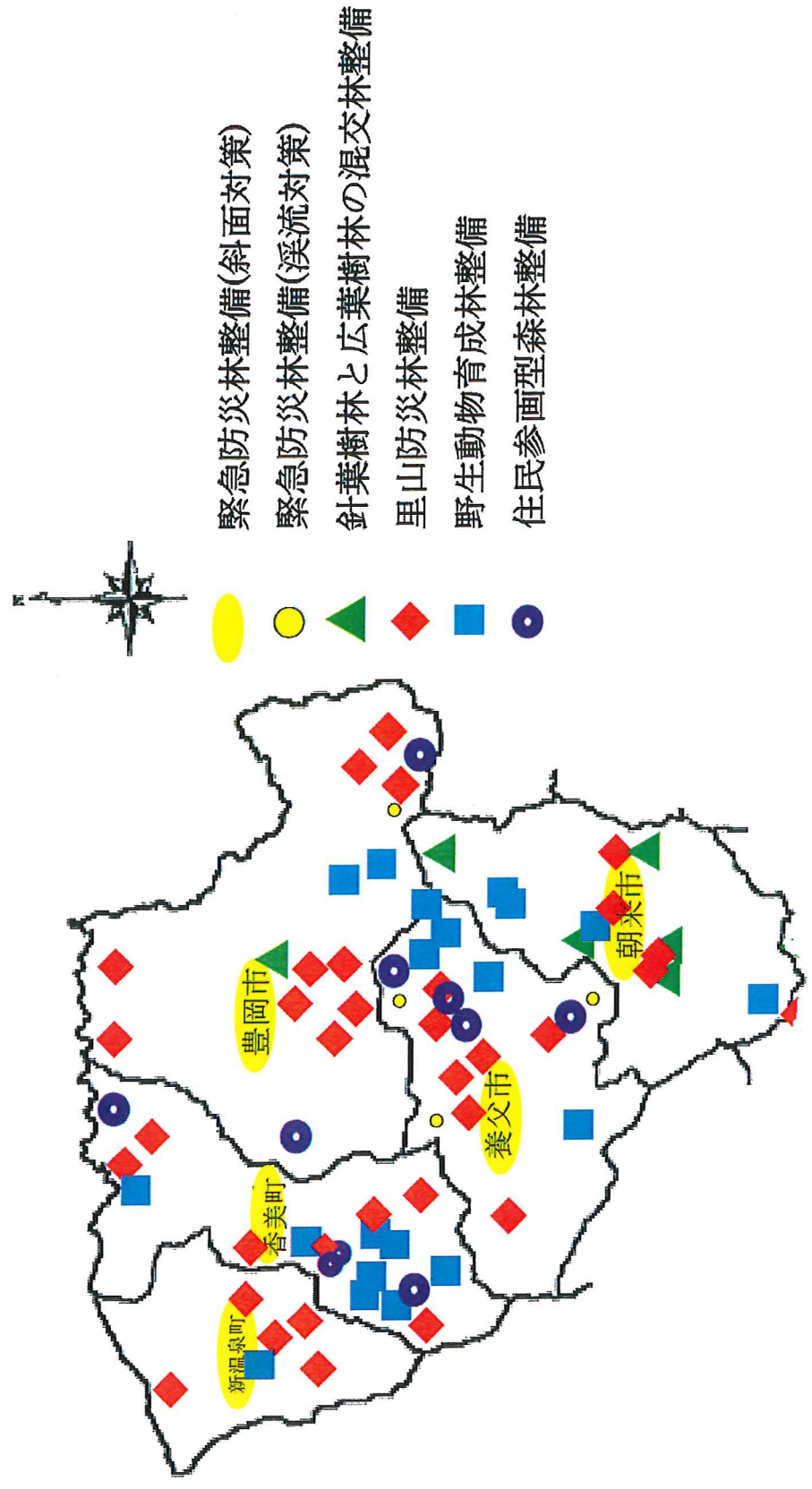
平成26年度

整備区分	実施面積(ha)					合計面積 (ha)
	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町	
緊急防災林(斜面对策)	48	126	142	78	62	456
緊急防災林(溪流対策)	2		17			19
里山防災林	65	18	20	44	13	160
野生動物育成林	23	64	64	69		220
針広混交林			115			115
住民参画型森林	2	3				5
合計	140	211	358	191	75	975

平成23年度～平成26年度累計

整備区分	実施面積(ha)					合計面積 (ha)	第2期対策 目標(ha)
	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町		
緊急防災林(斜面对策)	198	249	418	211	183	1259	2020
緊急防災林(溪流対策)	6	15	20			41	88
里山防災林	177	155	36	123	68	559	585
野生動物育成林	53	142	119	226	40	580	770
針広混交林			175			175	280
住民参画型森林	4	11		10		25	20
合計	438	572	768	570	291	2639	3675

「災害に強い森づくり」平成26年度実施箇所図



地域の防災力を高める人材育成の取組

県 県民

そなえる ～減災(ソフト)対策～



普通救命講習の様子（防災リーダー養成講座）



簡易救出訓練の様子（防災リーダー養成講座）



避難所運営演習の様子（防災リーダー養成講座）



講演の様子（自主防災組織交流大会）

平成 27 年度に実施した主な取組

1 但馬地域ひょうご防災リーダー養成講座

地域防災の担い手である自主防災組織等のリーダー育成を目的とした講座を開催

- 日程 平成 27 年 9 月 6 日（日）～平成 28 年 1 月 31 日（日）の間の 10 日間
- 内容 災害に関する知識を学ぶ座学をはじめ、図上演習、ワークショップ、地域防災訓練への参加や普通救命講習など、防災に関する多彩な講義内容で実施
- 受講者数 41 名

2 但馬地域自主防災組織交流大会

自主防災組織の活動活性化や地域防災の担い手・リーダーの交流を目的とした大会を開催

- 日程 平成 28 年 1 月 17 日（日）
- 内容 防災士（元気象予報官）からの基調講演、災害対応図上演習（D I G）などを実施
- 参加者数 94 名

今後の予定

但馬に居住するひょうご防災リーダー170名（H28.1末時点）を対象としたフォローアップ講座を実施予定

豊岡市

総合治水の取り組み（豊岡市）

取り組み一覧

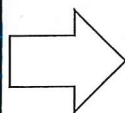
1 「ながす」：河川下水道対策

① 下水道整備の推進、施設の維持管理

豊岡市公共下水道事業計画に基づき雨水排水路の整備を推進するとともに、既存施設の定期的な維持管理。



整備前



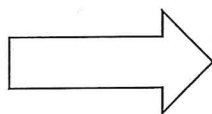
整備後（出石町内）

② 河川の浚渫

準用河川前川の堆積土砂等を計画的に撤去し、河川断面の確保。普通河川については、河川維持のため、地区による河川堆積土砂撤去の支援。



堆積土砂撤去前（日高町）



堆積土砂撤去後（日高町）

③ 排水ポンプの維持管理

市管理の内水排水ポンプの定期的な維持管理。

2 「ためる」：流域対策

① 校庭の芝生化

豊岡市内の公立幼稚園、小学校及び中学校の校庭の芝生化を平成 25 年度までに 41 校園 122,530 m²の整備を行い、今年度は、小中学校合わせて 2 校、3,650 m²の芝生化。（平成 26 年 9 月末現在：43 校園、126,180 m²）

適切な芝生の維持管理を行い、雨水及び土砂の水路への流出削減。



校庭の芝生化

② 田んぼダム

田んぼの所有者に同意を得ながら、排水口にせき板を設置し一時的に雨水を貯留。
平成 26 年度は、県よりせき板の配布を受けて 2 地区約 25ha で水田貯留。

豊岡市大谷地区（約 15ha）、日高町太田地区（約 10ha）



せき板による水位調整

③ 森林ダム

森林の防災機能を高めるため、災害に強い森づくりの推進。



里山防災林整備



緊急防災林整備
(間伐木を利用した土留工の設置)

④ 家庭雨水タンク

各家庭等が雨水貯留設備等を設置し雨水を貯留。エコハウス補助金制度の中で雨水タンクの設置に対して補助金を交付（1万円/件 H24～H26年度事業）



家庭用雨水貯留タンク設置

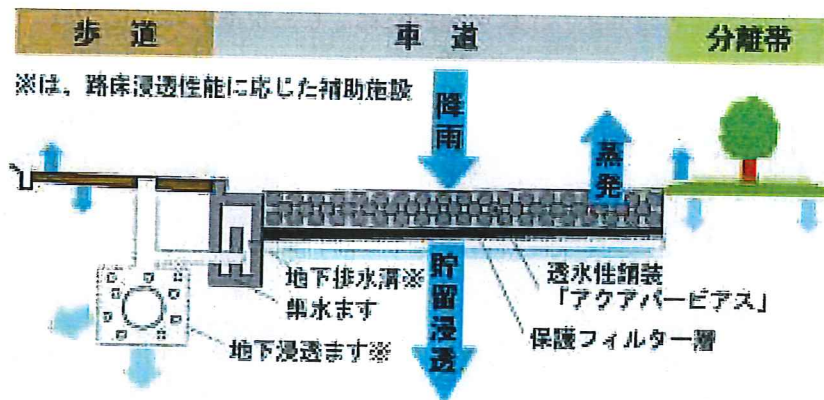


⑤ たため池貯留の検討

台風等の前に、ため池管理者に水位を下げてもらい、一時的に雨水の貯留を検討。

⑥ 透水性舗装等の検討

地下水位が低い地域などでは、道路舗装の改修に合わせて透水性のある舗装への変更、浸透側溝の設置を検討。



道路の透水性舗装概念図

3 「そなえる」：減災対策

① 子供の防災学習

平成 16 年台風 23 号等の災害を風化させないため、公立の幼稚園、こども園、小学校及び中学校の全てで、防災学習を年 3 回実施。引続き防災学習により防災意識を向上。

② ハザードマップの改定

平成 18 年度に作成して全戸配布しているハザードマップを平成 27 年度に更新予定。国及び県から提供される浸水想定データを基に、水害リスクに応じた避難行動を念頭に置いたエリア区分をして作成。



防災マップ

③ 浸水深の表示

平成 16 年台風 23 号の浸水深を明示する標柱を 41 箇所設置。また、国、県でも 47 箇所に浸水深を表示。



平成 16 年 10 月 20 日台風 23 号による浸水深さ表示

④ アンダーパス部の情報

雨水が集中しやすい構造である道路のアンダーパス部で過去に浸水被害が多く発生している路線、交通量の多い幹線道路に冠水情報板を設置。未設置箇所については、冠水情報板の設置を検討。



市道アンダーパス部の水位表示板



冠水情報板

⑤ 防災出前講座

自主防災組織等への出前講座、防災ワークショップ及び防災学習会を平成 25 年度には、年間約 40 回開催し、地区内の防災マップ作成、災害弱者への避難誘導等のあり方、訓練の

実施について啓発を行うなどして、自主防災組織の防災意識、対応力を向上。



防災ワークショップ



現場調査



防災学習会

⑥ 避難場所誘導

スムーズな避難誘導が行えるように案内板の設置を検討。



避難場所表示



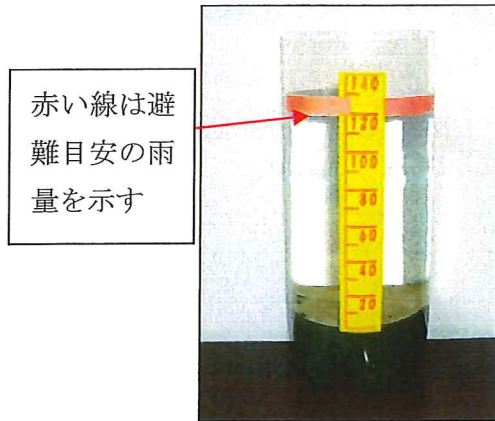
避難誘導表示

⑦ 簡易雨量計

大雨による土砂災害被害の軽減を図るため、土砂災害危険度予測システムによるシミュレーション結果から危険度の最も高いと判断される土砂災害警戒区域内の地区等に簡易雨量計を配布し、自主避難を促す仕掛けづくりを実施。

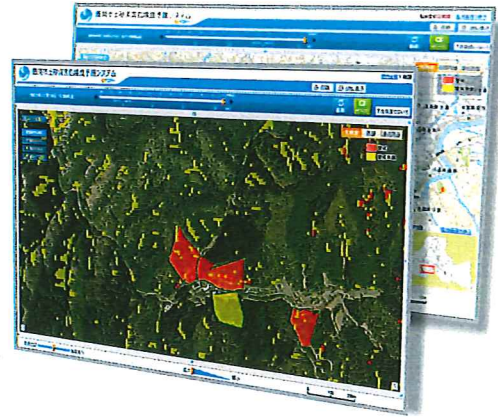
市のホームページ上で簡易雨量計の作り方を公開。

(<http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/1410938923425/index.html>)



赤い線は避難目安の雨量を示す

簡易雨量計



土砂災害危険度予測システム

⑧ 要援護者支援

避難行動要援護者と情報伝達等要援護者に区分した災害時要援護者登録制度をもとに、より避難支援が必要な避難行動要援護者を中心として個別支援計画の作成。

平成26年7月末現在、564名について自主防災組織により作成済。

⑨ 防災行政無線等による情報配信

防災行政無線、ホームページ及びメールにより、防災情報を配信



家庭用防災無線受信機

いざという時に住民に適切に避難してもらうための取り組み

豊岡市

そなえる ～減災(ソフト)対策～



防災ワンポイント



北但大震災メモリアル事業



合同水防訓練



出前講座



防災ワークショップ



簡易雨量計配布

内容

○コミュニティFMを活用した「防災ワンポイント」による情報提供（H22）

- ・ 1回5分にまとめた防災情報を朝夕放送し、防災行政無線でも再放送
- ・ 15テーマを75回放送し、製本したものを自治会に配布

○職員が地域に出向いた防災啓発講座（出前講座）

- ・ 平成23年度 54回実施 延べ3,591人受講
- ・ 平成24年度 29回実施 延べ1,270人受講
- ・ 平成25年度 33回実施 延べ1,561人受講
- ・ 平成26年度 36回実施 延べ1,356人受講
- ・ 平成27年度 34回実施 延べ2,178人受講（2月6日現在）

○国・県との共同事業

- ・ 北但大震災メモリアル事業（毎年5月23日前後）
- ・ 台風23号メモリアル事業（毎年10月20日前後）
- ・ 震災総合防災訓練（平成27年度から市民総参加訓練を同日実施）
- ・ 市民防災研修会の実施
- ・ 防災ワークショップの実施
- ・ 消防団との合同水防訓練

○市民が避難行動を取るための判断材料の提供

- ・ 簡易雨量計の配布（H26）
- ・ 土砂災害危険度予測システムの公開（H27）
- ・ 集落単位に区分した防災マップの配布（H28予定）
- ・ 出水期前に3種類の避難情報の出し方や行政の限界等を市長から防災行政無線で呼びかけ

